

日本医科大学東洋医学科活動報告

部長・教授	高橋 秀実
非常勤講師	三浦 於菟
非常勤講師	平馬 直樹
医局長・医員	古賀 実芳
医 員	廣田 薫
医 員	日高千鶴乃
医 員	高久 俊 (H18.9 から)
非常勤鍼灸師	内池 正弘
非常勤鍼灸師	藤田 勇
非常勤鍼灸師	菊地 順彦
非常勤鍼灸師	福岡 豊永
非常勤鍼灸師	福島 厚 (H18.6 まで)
非常勤鍼灸師	二階堂成己 (H18.7 から)
看 護 師	稲垣 桂子
看 護 師	佐藤しず代
秘書 (鍼灸師)	日高 珠保
顧 問	胡(菅沼)栄
研 修 生	齊藤 均 (都立広尾病院)

沿 革

本科は、平成2年7月、東京都千代田区飯田橋にあった日本医科大学付属第一病院の東洋医学外来として発足した。平成4年6月、日本医科大学付属第一病院東洋医学センターと改名し、病院長直轄の診療研究教育組織となった(当時のセンター長は藤木健一)。平成9年7月、付属第一病院の閉院に伴い、文京区千駄木にある日本医科大学付属病院の東洋医学科として移転、東洋医学科発足当初から当科の維持・発展に尽くされた三浦於菟先生が部長となり、日本医科大学における東洋医学科が確立された。平成15年4月には日本東洋医学会の研修指定施設(指導医:三浦於菟、春木英一)として認定された。平成17年2月、部長の三浦於菟先生の東邦大学医学部東洋医学科教授への転出に伴い、日本医科大学微生物学免疫学教室教授で日本東洋医学会指導医の資格を有する高橋が東洋医学科部長を兼務することとなった。

診療活動

平成17年2月より東邦大学医学部東洋医学科教授として転出された三浦於菟先生の後任として、それまで先生が築かれた日本医科大学における東洋医学の火を消さないために高橋が東洋医学科の部長を引き継ぐこととなった。その後、大学側の意向により免疫療法実施施設として現在の丸山ワクチン研究施設内に移り、平成17年4月からは平

馬直樹先生を非常勤講師として、また中医師として活躍中の胡栄先生を顧問として迎え新たな体制で診療を継続している。日本医科大学付属病院の他科からの紹介患者も次第に増え、現在の1外来体制では患者をさばききれない状況となっており、この1年間の総外来患者数は延べ5000人に達しようとしている。全科からの紹介患者を受け入れているため、疾患の種類はあらゆる分野に亘ると同時に、様々な科との併診となって治療が進められる場合が多い。その中でも、西洋医学では根治しにくい難病である、再発性あるいは転移した悪性腫瘍(癌)、リウマチや膠原病などの難治性進行性疾患、慢性腎炎や慢性肝炎、アトピー性皮膚炎を含むアレルギー性疾患、不妊症や生理不順を含む婦人科疾患、うつ病を主体とする精神神経疾患など多彩な疾患患者が来院する。もちろん、こうした患者群が感冒や胃腸炎・膀胱炎などの急性疾患を起こした場合には、抗菌剤などの西洋医学の薬剤の併用を含め適宜対処するとともに、必要に応じてCTスキャン、MRI検査、超音波検査などの様々な特殊検査を診察時のコンピュータ画面上でオーダーできる。また、後述するように、本東洋医学科では、スーパーローテイト中の研修医を受け入れているため、これら研修医の教育を含め、西洋医学の検査あるいは治療の併用を積極的に取り入れ、東洋医学と西洋医学を合体させた独自の医療の展開をめざしている。また、バックに大学の付属病院が控えているため、様々な疾患を抱えた入院患者さんも本科の治療の対象となることがあり、西洋医学的な治療に生薬あるいは鍼灸治療の併用を実施するとともに、それらの結果を定期的に行う研修医や医学生を交えたカンファレンスで検討している。

教育啓蒙普及活動

1) 卒前教育(医学部学生に対し)

3年生に対する基礎配属:日本医科大学では、報告者高橋が医学部3年生を対象とし「東洋医学的視点も含めた生体に内在する免疫応答力への理解」というタイトルのもと、およそ16年前から選択学生に対し中医学の講義主体とした陰陽五行説を含めた東洋医学の具体的な内容や基礎的な鍼灸理論、また高橋が関与する各種診療所や病院での鍼灸治療や湯液治療の実践見学、免疫学を背景とした科学的な薬理作用の概説、そしてツムラの茨城工場でのエキス剤製造過程、薬理研究所および

薬草園の見学を実施してきた。因みに平成 18 年度は選択者 24 名に対し 1 回 1 時間 30 分から 2 時間、総計 20 回の講義を実施した。例年このコースの選択者は非常に多く、全学生が 100 名足らず、コースが 80 コース程度あるにもかかわらず 15~25 名がこの東洋医学コースを選択している現状は、医学部学生が潜在的に東洋医学への興味を抱いていることを示唆している。

4 年生に対する東洋医学の教育：日本医科大学では、前任者の三浦於菟先生の時代から、医学部 4 年生を対象とし精神医学コースの中で東洋医学の講義を実施しており、平成 18 年度も昨年に引き続き高橋が独自に作成したテキストをもとに講義を担当した。まだ大学全体としては、講義時間が足りないと考えられるため、今後は少しずつ講義時間を増やしていく予定である。ただし、実際に講義を担当し感ずることは、全ての学生ではなく東洋医学に興味を持っている学生を対象として講義を行うことの方が遙かに効率的であり、その意義も深いことである。その意味で、現在日本医科大学で実施している選択学生を対象とした教育は、他の大学でも実践すべき事項ではないかと考えられる。

2) 卒後教育（研修医や大学院博士課程の学生に対し）

新臨床研修制度による研修：平成 18 年度は、日本医科大学付属病院での医師国家試験取得後内科・外科などの臨床研修を終えた 2 年目に当たる約 38 名の研修医の内、6 名が総計 9 ヶ月間、本東洋医学科で研修を積んだ。これらの研修医は配属された期間は全て東洋医学を学んでおり、将来東洋医学を自分の医療に取り込んで行きたいと考えているものの集団である。こうした研修医は東洋医学科のカンファレンスにも参加させ、自分が診た症例などについて報告させている。指導スタッフ不足のため、現在はひと月に 1 名の研修医を教育するのがやっとであるが、将来はより多数の研修医を受け入れたいと考えている。こうした、東洋医学科で研修を積んだ者に対しては、研修修了後も声をかけ、出来るだけ毎月 1 回実施している東洋医学科でのカンファレンスに参加させている。

3) 一般教育（一般大衆や医療者に対し）

平成 18 年度は、6 月 23 日（金）- 25 日（日）に大阪で開催された日本東洋医学会のみならず、様々な学会や講演会で医局員が東洋医学に関する学術講演をするとともに、平成 19 年 2 月 7 日（水）には東京大学で医学部の 3 - 4 年生に対し東洋医学に関する講義を高橋が行った。

生薬が作用する部位は粘膜、特に小腸の粘膜組織であろうとのこれまでの仮説に基づき、さらに研究を展開している。こうした小腸の粘膜部位には従来末梢血中に認められた異物に対する記憶形成能を有する獲得免疫系を構築する細胞群のみならず、自然抗体を産生する B-1 細胞や NKT 細胞、そしてランゲルハンス細胞に代表される樹状細胞群などが局在する。こうした粘膜局在型細胞群が細菌群由来の物質によって活性化するか否かを確認する目的で検討を重ねた結果、胃粘膜などの粘膜組織に局在する自己免疫との関連が指摘されている B-1 細胞が、ピロリ菌のウレアーゼという酵素によって活性化しリウマチ因子を産生することを見いだした（*Infect. Immun.*, 74:248-256, 2006）。また、経口投与された抗原の一部が分解されずに粘膜から吸収され門脈中に散見されること、そして、こうした粘膜吸収抗原が免疫寛容状態を誘導するために食事などを通じて体内に取り込まれた様々な抗原に対して過剰な応答が起こりにくくなっていることを発見した（*Immunology*, 119:167-177, 2006）。ところが、こうした抗原がコレラ毒素などとともに経口的に取り込まれた場合には、粘膜局所を中心に強い免疫応答が誘発され、その免疫力によって粘膜から発生した腫瘍の成長が抑制されることを明らかにした（*J. Immunol.*, submitting, 2006）。こうした事実は、粘膜投与型の生薬群がある時には体内免疫応答を抑制し、また逆に亢進させる可能性があることを示唆している。もし多くの症状が生体の応答性に起因するならば、様々な生薬群を組み合わせ経口投与することによって、小腸に局在する粘膜免疫システムが調節され、その結果体内の応答性を正常化する医学の必要性は大であり、生薬を用いた漢方治療はこのようなタイプの物ではないかと考え今後さらに研究を進めていく予定である。

著 書

- 1) 高橋秀実：持続感染症としての未病，未病医学入門（日本未病システム学会編），pp.108-112, 2006
- 2) 古賀実芳：§2. 女性の全般的診療に役立つ漢方臨床 7. 身体痛の漢方治療：産婦人科治療 第 92 巻増刊（2006 増刊）「女性医療と漢方医療」，株式会社永井書店，P.116(580) ~ 119(583), 2006
- 3) 大橋和史、廣田 薫、湯地和歌子、湯地晃一郎：服薬指導に役立つ治療薬ガイド：ナース専科 BOOKS，アンファミエ，2006，10

- 1) 高橋秀実: 癌の免疫療法: 丸山ワクチンの作用機序に関する一考察, 日本医科大学医会誌, 2006, 2(1) : 1-2
 - 2) 高橋秀実: 免疫システムの新たな実態: 基本免疫と獲得免疫, 日本感染症学会雑誌, 2006, 80(5) : 463-468
 - 3) 高橋秀実: 体表面に配置された自然免疫システムと体内を循環する獲得免疫システム, 炎症と免疫, 2006, 14(4) : 449-450
 - 4) 高橋秀実: 粘膜組織における HIV の拡散と制御, 炎症と免疫, 2006, 14(4) : 479-485
 - 5) 平馬直樹: 中医学で難治性疾患に挑む「乾癬」, 中医臨床, 2006, 127(2)
 - 6) 飯泉 匡、熊谷善博、高橋秀実: *Helicobacter pylori* 由来 urease の酵素活性を増強させる特異的抗体, 臨床免疫・アレルギー科, 2006, 46 : 205-207
 - 7) 新谷英滋、高橋秀実: ヒト免疫不全ウイルス Nef による免疫制御の機序, 臨床免疫・アレルギー科, 2006, 46 : 222-226
 - 8) 三浦於菟: 中国医学, 季刊民族学. 2006, 30(1) : 54
 - 9) 沼田健裕、三浦於菟: 漢薬記憶法(4), 漢方研究, 2006, 2 : 50-51
 - 10) 三浦於菟: 高齢者疼痛疾患の漢方治療, Pain Clinic, 2006, 27(4) : 446-454
 - 11) 沼田健裕、三浦於菟: 漢薬記憶法(5), 漢方研究, 2006, 4 : 143-145
 - 12) 三浦於菟: 当帰六黄湯加減が有効であった盗汗症例, 漢方の臨床, 2006, 53(7) : 143-145
 - 13) 福島 厚、三浦於菟: ヘルペス性口内炎の治療: 黄耆の再発予防効果について: 漢方と最新治療, 2006, 15(4) : 279-284
 - 14) 山西慎吾、神谷 茂、高橋秀実: ピロリ菌ウレアーゼによる B-1 細胞活性化作用と自己免疫疾患誘導の可能性, 日本ヘリコバクター学会誌, 2007 (印刷中)
 - 15) 高橋秀実: 母乳を介しての HIV 感染, 日本エイズ学会誌, 2007 (印刷中)
- 原 著
- 1) Yamanishi, S., Iizumi, T., Watanabe, E., Shimizu, M., Kamiya, S., Nagata, K., Kumagai, Y., Fukunaga, Y., Takahashi, H. : Implications for induction of autoimmunity via activation of B-1 cells by *Helicobacter pylori* urease. *Infect. Immun.*, 2006, 74(1) : 248-256.
 - 2) Wakabayashi, A., Utsuyama, M., Hosoda, T., Sato, K., Takahashi, H., Hirokawa K. : Induction of immunological tolerance by oral, but not intravenous and intraportal, administration of ovalbumin and the difference between young and old mice. *J. Nutr Health Aging*, 10(3) : 183-191, 2006.
 - 3) Watanabe, Y., Watari, E., Matsunaga, I., Hiromatsu, K., Dascher, C.D., Kawashima, T., Norose, Y., Shimizu, K., Takahashi, H., Yano, I., Sugita, M. : BCG vaccine elicits both T-cell mediated and humoral immune responses directed against mycobacterial lipid components. *Vaccine*(5), 24 : 5700-5707, 2006.
 - 4) Wakabayashi, A., Kumagai, Y., Watari, E., Shimizu, M., Utsuyama, M., Hirokawa, K., Takahashi, H. : Importance of gastrointestinal ingestion and macromolecular antigens in the vein for oral tolerance induction. *Immunology*, 119(6) : 167-177, 2006.
 - 5) Nakagawa, Y., Kikuchi, H., Takahashi, H. : Molecular analysis of TCR and peptide/MHC interaction using P18-110-derived peptides with a single D-amino acid substitution. *Biophysical J.*, 2006 (in press).
 - 6) Takahashi M., Watari E., Shinya E., Shimizu T., Takahashi, H. : Suppression of virus replication via down-modulation of mitochondrial short chain enoyl-CoA hydratase in human glioblastoma cells. *Antiviral Res.*, 2006 (revised)
 - 7) Wakabayashi, A., Nakagawa, Y., Shimizu, M., Moriya, K., Nishiyama, Y., Takahashi, H. : Suppression of Already Established Tumor Growing through Activated Mucosal CTLs Induced by Oral Administration of Tumor Antigen with Cholera Toxin. *J. Immunol.*, 2006 (submitting).
 - 8) Saito, N., Shinya, E., Shimizu, M., Owaki, A., Watanabe, E., Takahashi, M., Hidaka, C., Ibuki, K., Miura, T., Hayami, M., Takahashi, H. : Invariant T-cell receptor mediated functional cross-reactivity of natural killer T cells to species-specific CD1d among primates and rodents. *J. Virol.*, 2007 (submitting).
 - 9) 新谷英滋、大脇敦子、高橋秀実: DsRed2 を用いたエイズウイルス nef 遺伝子産物と脂質抗原提示分子 CD1a 相互作用の解析, 日本医科大学医会誌, 2006, 2(2) : 134-135
 - 10) 三浦於菟、高岡直子: 有効判定に ARD(自動反射診断装置)が有用であった五積散の一例: 東方医学, 2006, 21(4) : 17-21
 - 11) 三浦於菟: 疼痛の東洋医学的病態論: 漢方の臨床, 2006, 53(4) : 608-614

学会発表

国際学会

- 1) Takahashi, H. : CD1d-NKT system and HIV. Japan-US Cooperative Medical Science Program : The 19th Joint Scientific Meeting of AIDS. December 6-7, 2006 (Kagoshima), 2006, 12, 6-7.

国内学会

- 1) 平馬直樹：弁証論治の進め方，日本東洋医学会中四国分科会 教育講演 山口，2006，2
- 2) 平馬直樹：東洋医学から見たアンチエイジング阿蘇漢方シンポジウム 一般講演 熊本 2006，3.
- 3) 古賀実芳：市民講座「漢方でいきいき美しく」つらい痛みに漢方を！～肩こりや腰痛を我慢していませんか？～，第57回日本東洋医学会学術総会 特別講演 大阪，2006，6. 23
- 4) 古賀実芳、日高千鶴乃、廣田 薫、平馬直樹、高橋秀実：玉屏風散の合方が奏功した3例，第57回日本東洋医学会学術総会 一般講演 大阪，2006，6. 26-27
- 5) 高橋秀実、日高千鶴乃、廣田 薫、古賀実芳、平馬直樹：ウイルス感染症における解表作用の意義に対する一考察，第57回日本東洋医学会学術総会 一般講演 大阪，2006，6. 26-27
- 6) 日高千鶴乃、古賀実芳、廣田 薫、平馬直樹、高橋秀実：腸管ペーチェット病に対する発熱、下血に対し生薬治療を試みた一例，第57回日本東洋医学会学術総会 一般講演 大阪，2006，6. 26-27
- 7) 日高千鶴乃、平馬直樹、高橋秀実：未治療の多発性硬化症に対する東洋医学的治療の検討，日中伝統医学学術交流会 東京，2006，10. 8
- 8) 高橋秀実：HIV感染細胞の制御をめざしたワクチンの開発，第10回日本ワクチン学会学術集会 シンポジウム 大阪，2006，10. 21-22
- 9) 古賀実芳：女性と漢方，平成18年度日本東洋医学会関東甲信越支部第1回東京都部会 教育講演 東京，2006，10. 29

講演

- 1) 菅沼 栄：瀉下剤，東京中医学研究会 教育講演 東京，2006，1. 26
- 2) 日高千鶴乃：鳥インフルエンザについて，温知会 教育講演 東京，2006，1. 21
- 3) 菅沼 栄：和解剤，東京中医学研究会 教育講演 東京，2006，2. 23
- 4) 日高千鶴乃：鳥インフルエンザについて，伊豆漢方研究会 教育講演 神奈川，2006，2.
- 5) 平馬直樹：痰飲の病証と治療 神奈川実践漢方

勉強会 教育講演 横浜，2006，3.

- 6) 古賀実芳：病人を診る漢方～大学漢方外来診療室から～，大学勤務医のための漢方医学セミナー 教育講演 岡山，2006，3. 3
- 7) 菅沼 栄：和解剤，東京中医学研究会 教育講演 東京，2006，3. 23
- 8) 菅沼 栄：和解剤，東京中医学研究会 教育講演 東京，2006，4. 27
- 9) 菅沼 栄：和解剤，東京中医学研究会 教育講演 東京，2006，5. 25
- 10) 平馬直樹：弁証論治の実際 神奈川実践漢方勉強会 教育講演 横浜，2006，6.
- 11) 菅沼 栄：理血剤，東京中医学研究会 教育講演 東京，2006，6. 22
- 12) 古賀実芳：女性診療における漢方薬の役割，2006 東京都女性薬剤師会・夏季研修会漢方講座 教育講演 東京，2006，7. 9
- 13) 古賀実芳：女性診療における漢方薬の役割～痛み治療を中心に～，第103回県北漢方医学研究会 教育講演 福島，2006，7. 12
- 14) 菅沼 栄：理血剤，東京中医学研究会 教育講演 東京，2006，7. 27
- 15) 菅沼 栄：理血剤，東京中医学研究会 教育講演 東京，2006，9. 28
- 16) 平馬直樹：弁証論治の実際 神奈川実践漢方勉強会 教育講演 横浜，2006，10.
- 17) 平馬直樹：弁証論治、消化器疾患 福岡医師漢方勉強会 教育講演 福岡，2006，10.
- 18) 菅沼 栄：温裏剤，東京中医学研究会 教育講演 東京，2006，10. 26
- 19) 平馬直樹：弁証論治、呼吸器疾患 福岡医師漢方勉強会 教育講演 福岡，2006，11.
- 20) 菅沼 栄：温裏剤，東京中医学研究会 教育講演 東京，2006，11. 30
- 21) 高橋秀実：脂質と粘膜免疫，第7回癒しの療法研究会 特別講演 東京，2006，12. 16
- 22) 平馬直樹：弁証論治、生活習慣病 福岡医師漢方勉強会 教育講演 福岡，2006，12.
- 23) 高橋秀実：漢方と免疫，第6回東京大学実践漢方セミナー 特別講演 東京，2007，2. 7